

令和8年8月7日

各位

トモニホールディングスグループの令和9年3月期第1四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和9年3月期第1四半期（令和8年4月1日～令和8年6月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：有木 浩）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

（1）令和9年3月期第1四半期（令和8年4月1日～令和8年6月30日）連結業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息の増加により資金運用収益が増加したこと等により、前年同期比4,136百万円増加して27,666百万円となりました。経常費用は、外貨調達に伴う外国為替売買損の減少によりその他業務費用が減少したものの、預金利息の増加により資金調達費用が増加したこと等により、前年同期比1,921百万円増加して18,241百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比2,215百万円増加して9,425百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比1,318百万円増加して6,562百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は、前年度末比437億円増加して5兆2,477億円、純資産は、前年度末比72億円増加して3,045億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比316億円増加して4兆7,446億円、貸出金残高は、前年度末比399億円増加して3兆8,866億円、有価証券残高は、前年度末比395億円増加して8,127億円となりました。

		令和9年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	27,666百万円	4,136百万円
	経常費用	18,241百万円	1,921百万円
	経常利益	9,425百万円	2,215百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	6,562百万円	1,318百万円
		令和9年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	52,477億円	437億円
	純資産	3,045億円	72億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	47,446億円	316億円
	貸出金	38,866億円	399億円
	有価証券	8,127億円	395億円
	自己資本比率（国内基準）	9.51%	0.06%

（2）令和9年3月期（令和8年4月1日～令和9年3月31日）連結業績予想

令和8年5月14日に公表しております令和9年3月期の連結業績予想につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和9年3月期第1四半期（令和8年4月1日～令和8年6月30日）単体業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び役務取引等収益が増加したこと等により、前年同期比1,971百万円増加して14,537百万円となりました。

また、上記要因の他、外貨調達に伴う外国為替売買損が減少したこと等により、コア業務粗利益は、前年同期比1,057百万円増加して9,644百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比929百万円増加して4,873百万円となりました。

経常利益は、コア業務純益が増加したことに加え、与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比1,465百万円増加して5,743百万円となり、四半期純利益は、前年同期比1,138百万円増加して4,063百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・公金預金の増加等により、前年度末比330億円増加して2兆5,625億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比467億円増加して2兆7,524億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比92億円増加して2兆889億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.87%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比473百万円減少して32,826百万円、総与信に占める割合は1.54%となりました。

		令和9年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	14,537百万円	1,971百万円
	コア業務粗利益	9,644百万円	1,057百万円
	コア業務純益	4,873百万円	929百万円
	経常利益	5,743百万円	1,465百万円
	四半期純利益	4,063百万円	1,138百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	2,802百万円	376百万円
	与信関連費用	△536百万円	△546百万円
		令和9年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	27,810億円	404億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	25,625億円	330億円
	総預り資産	27,524億円	467億円
	貸出金	20,889億円	92億円
	有価証券	4,184億円	247億円
	自己資本比率（国内基準）	8.87%	0.12%
不良債権	金融再生法開示債権額	32,826百万円	△473百万円
	総与信に占める割合	1.54%	△0.03%

3. 香川銀行

(1) 令和9年3月期第1四半期（令和8年4月1日～令和8年6月30日）単体業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び役務取引等収益が増加したこと等により、前年同期比2,074百万円増加して11,331百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、前年同期比644百万円増加して7,558百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比640百万円増加して3,758百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比796百万円増加して3,566百万円となり、四半期純利益は、前年同期比218百万円増加して2,461百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人預金及び譲渡性預金は増加したものの、法人預金及び金融機関預金の減少により、前年度末比15億円減少して2兆1,893億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比95億円増加して2兆3,553億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比326億円増加して1兆8,089億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.86%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比223百万円増加して39,683百万円、総与信に占める割合は2.13%となりました。

		令和9年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	11,331百万円	2,074百万円
	コア業務粗利益	7,558百万円	644百万円
	コア業務純益	3,758百万円	640百万円
	経常利益	3,566百万円	796百万円
	四半期純利益	2,461百万円	218百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	2,706百万円	663百万円
	与信関連費用	287百万円	△84百万円
		令和9年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	24,536億円	36億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	21,893億円	△15億円
	総預り資産	23,553億円	95億円
	貸出金	18,089億円	326億円
	有価証券	3,925億円	147億円
	自己資本比率（国内基準）	9.86%	△0.02%
	金融再生法開示債権額	39,683百万円	223百万円
不良債権	総与信に占める割合	2.13%	△0.03%

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島大正銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-0102
TEL：088-656-1118
TEL：087-812-5132